

# 風屋根の下の待合所

— 気持ちをシェアするおおらかな環境をつくる —



既設ターミナルから瀬底大橋を望む：海への視線をさえぎらない屋根の高さとすることで、気持ちの良い待合スペースを創出します

## 01 気持ちのふくらみが重なるだらかな待合所

・この待合所には修学旅行の学生たち、里帰りの親子、日用品を購入して帰路に付くお年寄り、一人旅の旅行者など人々はそれぞれ違う目的を持つ人が訪れ、同じ屋根の下で居場所をシェアすることになります。

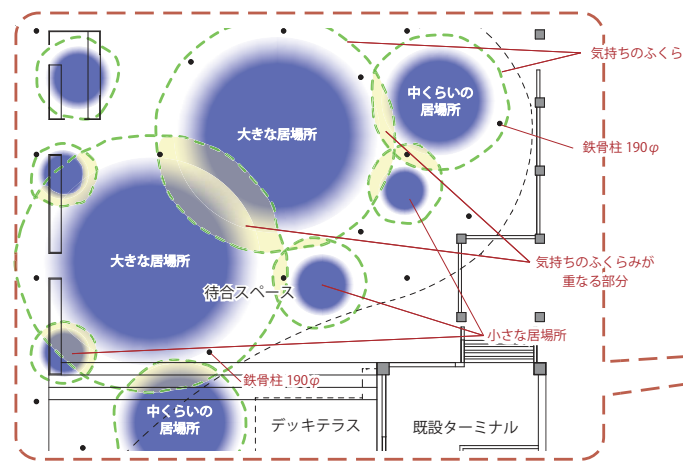
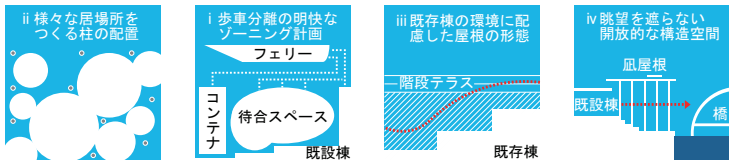
たくさんの人たちが集う大きな屋根の下は、柱により緩く仕切られた大小さまざまな居場所が分散配置されます。性格の異なる居場所が隣接する待合所には、利用者同士の気持ちのふくらみが重なる環境が生まれます。

気持ちのふくらみが重なるとは・・・

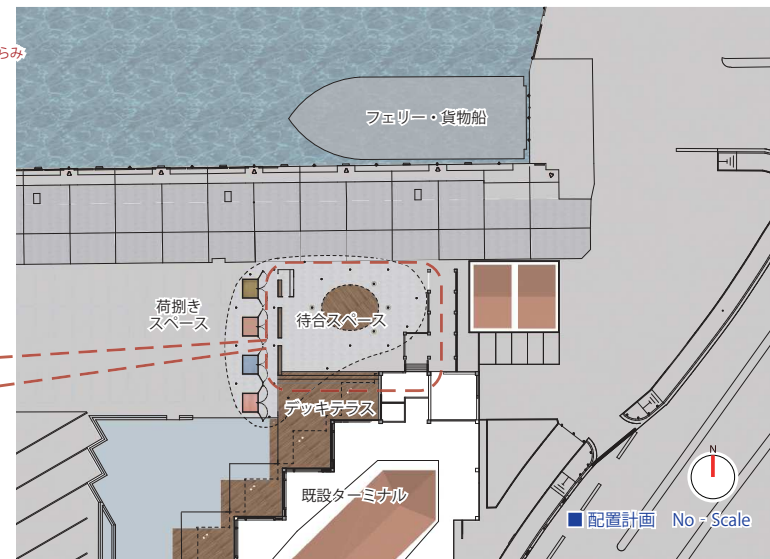
・旅の道中、私たちの気持ちは日常から解放され、ちょっと大胆になります。知らない人に話しかけたり、新たな出会いや経験を期待したり、知らない食べ物食べてみたり、すこし気持ちがふくらみます。この気持ちのふくらみは「日常では他者だった存在」を許容するきっかけになります。

私たちは旅の思い出やワクワクした気持ちをシェアすることのできる「風屋根の下の待合所」を以下の i ~ iv の設計手法を用いることによって実現します。

### ■ 設計ダイアグラム



■ 気持ちのふくらみが重なる環境のイメージ  
柱によりスペースを緩く仕切り大きな居場所と小さな居場所を混在させる  
気持ちのふくらみが重なる距離感を大屋根で包む待合スペース



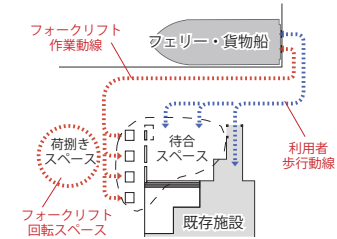


## 02 安心して利用できる動線 & ゾーニング計画

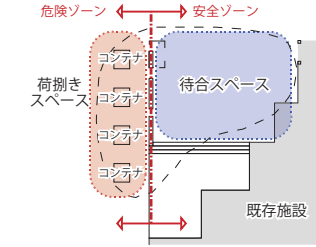
・施設の利用者にとって事故やトラブルの無い、安心して利用できる安全性の高い動線 & ゾーニング計画とします。

船に乗り降りする利用者の歩行動線とコンテナを運ぶフォークリフトの作業動線は交差することがない様に歩車分離の計画とする事で安心・安全な待合施設となります。  
また、利用者が待機する待合スペースとコンテナへの積み荷スペースを風除室（受付を兼ねる）やベンチなどで仕切る事で、小さなお子様が危険な作業ゾーンへ入り込む事のない計画とします。これにより管理者にとっても安全性を確保しやすいゾーニング計画とします。

### ■ 利用者・作業動線計画図



### ■ 待合・荷捌きスペース ゾーニング図



## 03 環境に対応する大屋根の提案

・既存施設と一体的な利用が図れる様に、新たに計画される待合スペースとの段差部分には階段状のデッキテラスを延長した計画とします。階段テラス部分を腰掛け代わりにしたり、テラスをステージとすれば小さなイベントにも利用する事ができます。

・屋根は柔らかい曲線のアウトラインを描くことで既存施設に対して柔軟にフィットし、どこからでも利用していただけるように正面性の無いデザインを提案します。



むんじゅる広場は日当たりの良い空間となります

また、大屋根の一部に透明ポリカーボネートの屋根とし日当たりの良い環境をつくれます。このスペース（むんじゅる広場）は、夏はツタ植物などによる木漏れ日広場となり、冬の寒い日には日向ぼっこができる暖かい場所となります。利用者は季節や気分にあわせて心地の良い環境を選ぶことができます。

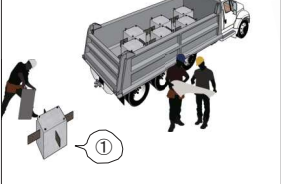
## 04 構造計画とコストへの配慮

・階高 5.20mの屋根を支える柱の構造形式として、鉄骨柱 190φ にコンクリートを充填する CFT 工法を採用する事で、柱材の座屈・変形に強い計画とします。  
また、大梁はフラットバー 9×400 を 2 枚を組み合わせるボックス梁とする事で、ロングスパンの架構を形成し軽快な屋根の印象とします。小梁には溝形鋼を @1,000 で配置する事により餅網の様な構造体として水平力を負担します。（柱梁は溶融亜鉛メッキ処理の上にフッ素樹脂塗装）

屋根材は膜屋根を選定する事で躯体を軽量化、構造体への負担を軽減できるため基礎を最小限のサイズで計画します。また、塩害に対しても耐久性のある材料選定とします。

基礎の施工は、独立基礎（フーチング）を工場で作製し、現場搬入・設置とし、地中梁は鉄骨の地中梁とする事で現場施工作業を最小限とします。さらに、柱・梁などの各部材を規格化して工場生産とする事により人件費と工期の縮減に努め、総工事費のコストコントロールを行います。

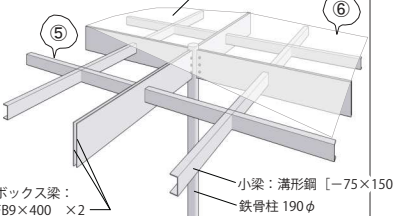
### ■ 施工フロー図



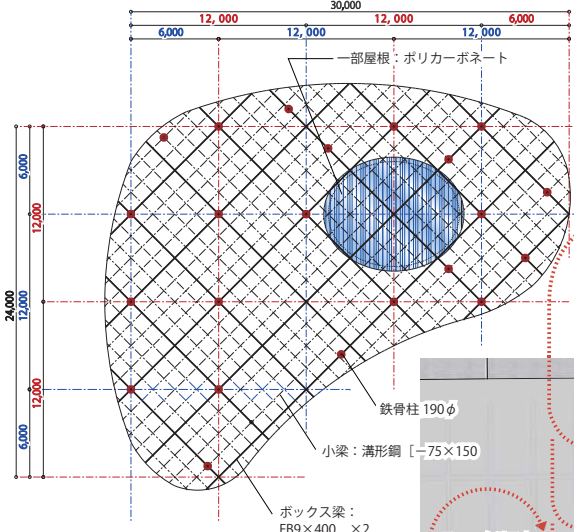
①基礎は工場で作製し現場へ出荷される  
②現場にて基礎を設置



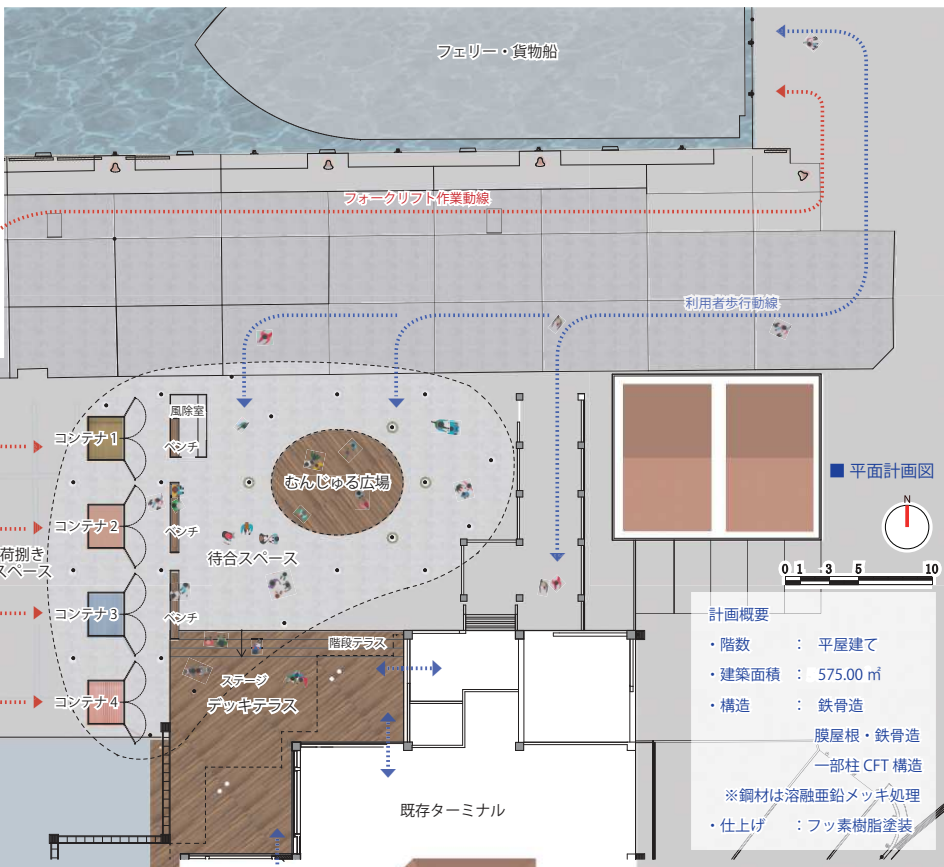
③鉄骨地中梁にてフーチングを接続  
④鉄骨柱を現場にて高力ボルト接続



⑤柱とボックス梁を接続 ボックス梁に小梁を接続  
⑥膜屋根（A種膜）を設置して完了



### ■ 構造屋根伏図



### ■ 平面計画図

計画概要

- ・階数 : 平屋建て
- ・建築面積 : 575.00 m<sup>2</sup>
- ・構造 : 鉄骨造
- 膜屋根・鉄骨造
- 一部柱 CFT 構造
- ※鋼材は溶融亜鉛メッキ処理
- ・仕上げ : フッ素樹脂塗装



大屋根の下の待合スペースではデッキテラス・ベンチ・ひんやりした土間・日当たりの良いむんじゅる広場など、利用者の気分が合った環境を選択できる